

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：34310

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26570021

研究課題名(和文)身体フェミニズム理論の構築--性暴力批判と女性の具体的なエンパワメントに向けて

研究課題名(英文)Construction of theory for physical feminism: Towards a critique of sexual violence and more concrete empowerment for women

研究代表者

岡野 八代 (Okano, Yayo)

同志社大学・グローバル・スタディーズ研究科・教授

研究者番号：70319482

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は、歴史的に、ほとんどの社会で女性たちが担ってきたケア実践、すなわち、育児や家事、介護や看護の経験から、女性の身体性がいかに社会的に構築されてきたかを分析し、身体をめぐる脆弱性の社会的意味や女性たちの意思決定のあり方に新しい光を当てた。

本研究を通じて発表された論文・著書は、これまで社会的に過小評価されるか、社会的弱者へと押しつけられがちなケア実践を再評価するために、思想的、歴史的、そして実践現場のなかで、ケア実践の意味を新たに問い返した。

研究成果の概要(英文)：This research succeeded in shedding new lights on the social meanings of vulnerability of female body and a specific way of decision making of women. Care works, such as childcare, house keeping, elderly care and nursing which women historically were forced to practice in most societies partly constructed women's bodies.

Academic papers and books published during the project tried to revalue the care practices which had been devalued or has been enforced on the socially weak. They reexamined the meaning of care practices theoretically, historically and under the context of care works, especially nursing.

研究分野：政治思想史

キーワード：ケア 女性の身体 母性 看護実践

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、戦時性暴力の被害者として沈黙を強いられてきた女性たちが、国際社会に向かって声を上げ、翻って男性中心主義的な国際社会・国際法・正義のシステムに抵抗し始めることを支援する運動に携わってきた。女性が受ける暴力は、性暴力という形で発揮されることが多く、とりわけその被害が膨大で悲惨なものになればなるほど、抵抗や告発が難しいことを目の当たりにしてきた。たとえば日本軍性奴隷制度であった「慰安所」制度は、被植民地女性を多く徴用し、歴史的にも文化的にも「か弱い女性たち」が被害にあったと語られてきたし、事実、そうした社会的弱者である女性たちが被害にあったのだ。

女性たちが女性であるからこそ受ける暴力被害に対しては、したがって、その回復に必要な時間とケアの質、また、恥をかかずに被害について語れる女性フレンドリーな場の重要性が論じられてきた。暴力からの回復については、多くの議論がなされている一方で、女性たちが暴力にいかにか抵抗するのか、非暴力な平和を唱えればそれは、無抵抗主義なのか、といった困難な問いについては、いまだほとんど議論されていないが現状である。しかし、ドメスティック・バイオレンスやセクシュアル・ハラスメント、そして強姦事件、戦時性暴力の問題がいまだ解決されるどころか深刻化しているとさえいえる現在において、今後女性たちがいかに身体的にエンパワメントされるべきなのかといった実践の問題と、女性の身体を「鍛える」ための理論的根拠を見出すことは、フェミニズム理論にとって急務の課題であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、身体フェミニズム physical feminism という新しい概念構築をめざすことである。女性たちは社会生活を送る上で、その身体をめぐるのは、見られる身体、消費される身体、商品化される身体、犯される身体など、受動的な存在として貶められてきた。他方で、社会的な抑圧に対する抵抗として、自らの身体性を積極的に肯定することはむしろ、女性性の強調や既存のジェンダー規範、ヘテロ・セクシズムの再生産にも陥りやすく、女性たち身体へのエンパワーはいかにして可能かという問題は、いまだ解かれていない。伝統的な心身二元論に理論的には批判を向けつつも、これまで深く論じられてこなかった、具体的な女性の抵抗の在り方と身体の関係性を探りつつ、女性の「強い身体」の可能性を見いだすことが本研究の目的であった。

3. 研究の方法

女性と暴力をめぐる従来の論争を概観し、様々な立場のフェミニストたちの議論にお

いても、女性が「力」から疎外されてきた歴史を明らかにする。他方、対象としての身体ではなく、身体を生きる活動として、身体を鍛えてきた女子プロレスラーや、介護士や保育士といった身体性を伴う職場に就く女性たちの身体能力、身体の鍛練を積んできた女性たちについて実態調査をする。

4. 研究成果

本研究の成果は、歴史的に、ほとんどの社会で女性たちが担ってきたケア実践、すなわち、育児や家事、介護や看護の経験から、女性の身体性がいかに社会的に構築されてきたかを分析し、身体をめぐる脆弱性の社会的意味や女性たちの意思決定のあり方に新しい光を当てた。

本研究を通じて発表された論文・著書は、これまで社会的に過小評価されるか、社会的弱者へと押しつけられがちなケア実践を再評価するために、思想的、歴史的、そして実践現場のなかで、ケア実践の意味を新たに問い返した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 15 件)

2016 年

1. Muta, Kazue "The "Comfort Women" issue and the embedded culture of sexual violence in contemporary Japan," *Current Sociology*, vol. 64: 620-636. Peer reviewed.

2. Okano, Yayo "Why has the Ethics of Care Become an Issue of Global Concern?" *International Journal of Japanese Sociology*, Vol. 25: 85-99. Peer reviewed.

3. 岡野八代「関係性アプローチ ジェンダー平等と暴力の観点から」『法社会学』82 巻: 22 - 39 頁、査読有

4. 岡野八代「継続する第二波フェミニズム リベラリズムとの対抗へ」『同志社アメリカ研究』53 巻: 103 - 124 頁、査読有。

5. 内藤葉子「マリアンネ・ウェーバーとアメリカ セツルメントと社会化への関心」『同志社アメリカ研究』53 巻: 125 - 146 頁、査読有。

6. 野口久美子「先住民フェミニズムと「家族」: 児童福祉法(1978年)の制定背景に関する一考察」『同志社アメリカ研究』53 巻: 147 - 168 頁。

7. 影山葉子「看護における shared decision-making の実践とその責任 代理意思決定者としての家族への支援を通して」『同志社アメリカ研究』53 巻: 169 - 190 頁、査読有。

2015 年

8. 影山葉子・浅野みどり「家族への退院支援に関する国内支援レビュー(第一報)」『家族看護学研究』Vol.20, no.2:93-105、査読有

9. 影山葉子・浅野みどり「家族への退院支援に関する国内支援レビュー(第二報)」『家族看護学研究』Vol.20, no. 2: 106-116、査読有

10. 岡野八代「個人を育む家庭・家族の社会的意義 ケアの倫理からみた「自立」批判から」『日本家庭科教育学会誌』58 巻:133 - 143 頁、査読有

11. 牟田和恵「「ケアの倫理」と法の接近可能性」

『ジェンダーと法』12 巻:61 - 65 頁、査読無

12. 牟田和恵「ハラスメントの社会学」『月報私法書士』529 巻: 4 - 11 頁、査読無

2014 年

13. 岡野八代「ケアの倫理の源流へ」『倫理学研究』44 号: 14-25 頁、査読有

14. 岡野八代「「慰安婦」問題が見つけた安全保障問題」『ジェンダーと法』11 号: 93 - 104 頁、査読有

15. 合場敬子「女子プロレスラーという職業選択」『a-Synodos』159: 1 - 2 頁、査読無

16. 野口久美子「公民権・ポスト公民権期におけるアメリカ先住民研究の設立過程と展開」『アメリカ史研究』37 巻:22 - 38 頁、査読有

〔学会発表〕(計 6 件)

2016 年

1. 内藤葉子「女性の近代的主体化をめぐるフェミニズムの葛藤と挑戦 真理案ね・ヴェーバーの家族法批判と市民的家族像の検討から」『法社会学会』2016 年 5 月 15 日、立命館大学(京都府・京都市)

2015 年

2. 影山葉子「家族への意思決定支援にける看護実践の倫理 退院調整看護師の実践から」日本看護研究学会、2015 年 8 月 23 日、広島国際会議場(広島県・広島市)

3. 岡野八代「関係性アプローチと法理論 ジェンダー平等と暴力の観点から」法社会学会(招待講演)5 月 10 日、首都大学東京(東京都・八王子市)

4. 岡野八代「個人を育む家庭・家族の社会的意義」日本家庭科教育学会(招待講演) 2015 年 6 月 27 日、鳴門教育大学(徳島・鳴門市)

5. 牟田和恵「日本のジェンダー平等の課題」法社会学会(招待講演) 2015 年 5 月 9 日、首都大学東京(東京都・八王子市)

2014 年

6. Naito, Yoko, "Single Mothers Living with the Fear of "State of Nature," at the Conference of the international working group for comparative studies of the legal

professions, 7th July 2014, at Frauenchiemsee (Frauenchimsee, Germany)

〔図書〕(計 5 件)

2017 年

1. Aiba, Keiko *Transformed bodies and gender: Experiences of women pro-wrestling in Japan*, Union Press, 254 pages.

2016 年

2. Aiba, Keiko, *Performance and Professional Wrestling*, Routledge, 226 pages.

2015 年

3. 牟田和恵『改訂版 ジェンダー・スタディーズ 女性学・男性学を学ぶ』総 264 頁(大阪大学出版会)

4. 牟田和恵『加害者は変わるか?』総 255 頁(筑摩書房)

5. 岡野八代『戦争に抗する ケアの倫理と平和の構想』総 304 頁(岩波書店)

6. 石井香江『歴史のなかの社会国家 20 世紀ドイツの経験』総 337 頁(山川出版社)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡野 八代 (Okano, Yayo)

同志社大学グローバル・スタディーズ研究科・教授

研究者番号: 70319482

(2)研究分担者

野口 久美子(Noguchi, Kumiko)
明治学院大学・国際学部・講師
研究者番号：00609571

合場 敬子 (Aiba, Keiko)
明治学院大学・国際学部・教授
研究者番号：50298056

影山 葉子(Kageyama, Yoko)
静岡県立大学短期大学部・助教
研究者番号：50566065

内藤 葉子(Naiko, Yoko)
同志社大学・アメリカ研究所・嘱託研究員
研究者番号：70440998

石井 香江(Ishii, Kae)
同志社大学・グローバル地域文化学部・准教授
研究者番号：70457901

(3)連携研究者

()

研究者番号：